



今回の図書ニュースはこの時期の恒例、「教育実習生による図書紹介」をメインにお送りします。□内は本校図書館の分類番号です。図書館に来て探してみてください。

《教育実習生による図書紹介》

1. 高校を卒業してから読んで、高校時代に読んでおけばよかったと思う本
2. 後輩に是非とも読むことを薦めたい本。
3. 高校時代に読んで印象に残った本。

以上の3点について、紹介していただきました。

A・Iさん（英語）

3. ミヒヤエル・エンデ『果てしない物語』943-E2-1

あの量の本を読めたことで、どんな本でも読める自信ができました。

S・Mさん（世界史）

1. 内田樹『レヴィナスと愛の現象学』&『先生はえらい』

易しくはないですが、決して気合いを入れずに読むと、レヴィナスの言う「愛」が身体に感じられる気がします。

2. 池田晶子『考える人 口伝西洋哲学史』

「ああなんだ、こんなに簡単だったのか！」と思わされます。ヘーゲルが好きになります。

- 三島由紀夫『午後の曳航』918-S9-1-45

好きキライが分かれる本だと思いますが、「ひょっとしたら文学って面白いかも」と思えるかもしれません。

最近では伊坂幸太郎が面白いと思いました。『チルドレン』913-142-1 オススメ！！

3. 村上春樹『世界の終わり』&『ハードボイルド・ワンダーランド』913-M60-4-4

本当に面白い小説です。

- 夏目漱石『三四郎』081-11-7-10-6（岩波文庫など）

夏目漱石を読むと、なんだかんだ、明るい気持ちになる気がします。中でも三四郎はオススメ。

A・Mさん（日本史）

1. 浅田次郎『蒼穹の昴』913-A31-1・2

これを読んでおけば世界史（中国）の授業がより面白いと思います。

2. 灰谷健次郎『太陽の子』

沖縄戦の傷跡を描いた作品。小学生の時に読んでただただ泣きました。

3. 宮部みゆき『龍は眠る』

非現実的な話は苦手でしたが、この本は面白かったです。サイキックが登場します。

M . Aさん (日本史)

1. 宮部みゆき 『蒲田邸事件』

フィクションだが、歴史に関する興味がわくから。

2. 山田昌弘・伊藤守 『格差社会スパイラル』

現在の日本社会の問題とコミュニケーションの大切さが分かる。

3. 太宰治 『人間失格』 913-D1-6 (新潮文庫など)

衝撃的な内容で、深い感情の動きがかかっていた。

S . Fさん (数学)

1. 山岡信幸 『カリスマ先生の地理』

地理を取っていない人にぜひ読んでほしい。民族紛争など、世界が抱える様々な問題についてわかりやすく解説してくれます。

2. 水谷修 『夜回り先生と夜眠れない子どもたち』

表には出てこない社会問題を考えさせられる本。社会のリーダーとなっていく北野生にぜひ。

3. ジェームス・B・マース、井上晶次郎監訳 『怪眠力 パワースリープ』

睡眠のとり方次第で人生も変わるはず。

R . Sさん (数学)

1. 相田みつを 『生きていてよかった』

本ではないですが、かみしめたい言葉がいっぱいあります。

2. 本ならジャンルを問わず何でも。

ぜひ本を読む習慣を！！

3. 夏目漱石 『こころ』 081-11-2-72 (岩波文庫など)

この本の中での出来事は忘れられません。

S . Hさん (生物)

2. 浅田次郎 『蒼穹の昴』 913-A31-1・2

「この物語を書くために私は作家になった」という作者の言葉通りの大傑作です。心の奥深くに残る作品です。

A . Oさん (生物)

2. 相田みつを 『生きていてよかった』

ヒトに生まれてきて良かったな、と思えます。

3. 東野圭吾 『変身』

人間の本質とは何なのかを考えさせられます。

M . Mさん (英語)

1. 三浦綾子 『愛の鬼才 - 西村久蔵の歩んだ道』

信仰に支えられた人の行動が、いかに多くの人々を動かすことができるか、驚かされる一冊です。

2. 青山圭秀 『理性のゆらぎ』

物質科学と精神科学、運命と自由意志との関係について、自分なりの視点を持つ助けとなる一冊だと思います。

3. 夏目漱石 『こころ』 081-11-2-72 (岩波文庫など)

一見地味で孤独な「先生」が「わたし」を魅きつけるものとは何なのか、考えさせられました。

N．Hさん（家庭）

1. 妹尾河童『河童が覗いたヨーロッパ』

ヨーロッパの各国の庶民の暮らし、歴史をわかりやすく書いており、興味深かったです。

2. 水上勉『ブンナよ木からおりてこい』[913-M36-16](#)

動物たちの会話が、きれいごとではない心理についており、色々と深く考えさせられる本です。

3. 妹尾河童『少年H』[913-S83-1-1.2](#)

戦争体験の日常を少年の目線から読みとることができます。

Y．Aさん（日本史）

2. 伊坂幸太郎『アヒルと鴨のコインロッカー』

現代の色々な問題が、さらりと要素に盛り込まれていて、興味深い。文体やストーリーの展開がおもしろい。

3. 宮部みゆき『模倣犯』[913-M71-4-1.2](#)

北野の図書館で借りたが、長い期間返却せず滞納してしまい、T先生に怒られた思い出の一冊（上下巻なので二冊）。

T．Wさん（数学）

1. 妹尾河童『少年H』[913-S83-1-1.2](#)

笑いあり、涙ありの一冊。自分と主人公を照らしあわせて読んでもらいたい。

2. シドニー・シェルダン『真夜中は別の顔』

最後がどうなるか、気になって一気に読んでしまいました。本を読む習慣のない人に、是非！の一冊。

3. 山田詠美『放課後のキーノート』

K先生の課題で読みましたが、刺激の強い一冊でした。

E．Mさん（生物）

1. ブルーバックス（講談社）のシリーズ

いろいろ読んでみて、視野を広げて下さい。

2. 夏目漱石『こころ』[081-11-2-72](#)（岩波文庫など）

国語の教科書にとりあげられていると思いますが、ぜひ全文を読んでみて下さい。

C．Hさん（化学）

2. 森絵都『DIVE!』

高校生の葛藤などが青春なカンジです。

A．Mさん（化学）

3. 宮部みゆき『模倣犯』[913-M71-4-1.2](#)

読み出すと止まらず、すらすら読めてよかったです。

《新着図書紹介》

今春以降に図書館に入った図書をいくつか紹介します。(文は「BOOK」データベースより)

『幽霊を捕まえようとした科学者たち』デボラ・ブラム [147-B1-1](#)

錬金術から化学が、占星術から天文学が、心霊研究からは? 幽霊の存在を科学的に実証せよ! ノーベル賞科学者のチームが始めた驚愕の研究。

『インスタントラーメン発明王安藤百福かく語りき』安藤 百福 [159-A6-1](#)

世界の食文化を変えたミスターヌードル。稀代の創業経営者が語る独創と不屈の精神。

『漢字がつくった東アジア』石川九楊 [821-I3-1](#)

始皇帝が文字を統一したとき、漢字が東アジアの歴史を照らし始め、漢字文明圏が決定づけられる。やがて大陸(中国)の変動に呼応する形で、平仮名(日本)、ハングル(朝鮮)、チュノム(越南)が生まれ、それぞれの文化の枠組みが形成されてゆく。その延長上に現代を位置づけなおすとき、二十一世紀が目指すべき方向が見えてくる…。鬼才の書家が巨視的な観点から歴史をとらえなおし、国民国家を所与とする世界観を超え、読者を精神の高みへと導く知的興奮に満ちた一冊。

『はじめての文学』シリーズ [913-H52-1~](#)

小説はこんなにも面白い! 文学の入り口に立つ若い読者へ向けた自選アンソロジー。現在、村上春樹、村上龍、よしもとばなな、宮本輝、宮部みゆき、浅田次郎、川上弘美の各冊が図書館にあります。

『僕僕先生』仁木英之 [913-N58-1](#)

時は唐代。
若き王弁は父の財産に寄りかかり、学ばず、働かず、娶らず、ひたすら安逸を貪っていた。
そんなある日、父の命で黄土山へと出かけた王弁は、そこでひとりの美少女と出会う。
自らを僕僕と名乗るその少女、なんと何千何万年も生き続ける仙人で...不老不死にも飽きた辛辣な美少女仙人と、まだ生きる意味を知らない弱気な道楽青年が、五色の雲と駿馬を走らせ天地陰陽を大冒険。
第 18 回日本ファンタジーノベル大賞大賞受賞作。

『私の夫はマサイ戦士』永松真紀 [916-N14-1](#)

赤道直下のケニア共和国。首都ナイロビから遠く離れ、野生動物が群れをなすサバンナの真ん中にある小さな村が、私の嫁ぎ先です。夫は推定 30 歳、7 頭のライオンと象を仕留めた勇猛果敢な本物の戦士。シャワーもトイレも、電気すらもない。でも、どこか温かいマサイ村での、暮らしぶりは...

『だまされる視覚』北岡 明佳 [145-K3-1](#)

止まっている絵が動いて見える、同じ明るさなのに同じに見えない、まっすぐなはずの線が傾いて見える...目の錯覚(錯視)によって、こんな、にわかには信じられない現象が発生する。
なぜ錯視は起こるのか? そこに何らかの法則はあるのか?
錯視図形を満載し、その驚異の世界を、錯視デザインの第一人者が案内する。
錯視の心理学と錯視デザインが一度にわかる、究極の錯視ガイドブック、登場。